

自 2020年4月 1日
至 2021年3月 31日

2020年度 事業計画書

公益財団法人 情報通信学会

—学会活動の活性化の推進—

2020年4月1日から2021年3月31日まで

はじめに

AIやIoT技術の発展、とりわけ次世代の通信システムである5Gの実用化とそれらに対する期待やもたらす課題など、わが国におけるこれらに関連する政策の重要性は、今非常に大きい。こうした社会変化に適応しつつ、アカデミックとしての客観性を保ちながら、公益財団法人として果たすべき社会的責任のひとつとして、学術的立場から国の政策に貢献していく。そのために今年度は、(1)若い研究者にとって魅力ある学会活動の活性化、(2)会員の拡充、(3)学会活動の国際化、(4)関連諸機関との連携および産官学連携の確立、(5)財政の健全化について、着実にかつスピード感をもって取り組み、学会の社会的プレゼンスのさらなる向上を目指す。

1. 公益事業1 学術大会、国際フォーラムの開催

学術大会及び国際的なフォーラムの開催は、学会員のみならず、広く外部からの参加を認めており、情報通信分野における総合的かつ学際的な研究発表の場となっている。

春と秋にシンポジウムを中心とする国際コミュニケーション・フォーラムと個人研究発表の場である学会大会を各2回開催する。

(1) 2020年度春季(第42回)情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

2020年度春季(第42回)情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムを2020年7月4日(土)、7月5日(日)の2日間にわたり、関西大学梅田キャンパス(大阪府大阪市北区鶴野町1-5)において開催する。

学会大会では、個人研究発表(学生の部、一般の部)、ポスターセッション、研究会報告を行う。また個人研究発表では、引き続きすべての発表に討論者を付け、研究発表の質の向上を目指すとともに、発表者の今後の研究活動への有益な機会を与える。大学院生の部においては、優秀な発表にアーリーバード発表賞を贈る。また、この大会は情報通信月間参加行事である。

国際コミュニケーション・フォーラムでは、テーマを「大阪・関西万博におけるICTの利活用とツーリズムの新局面(仮題)」とし、近年の博覧会の動向を踏まえつつ、ICTのいかなる展示や利活用が期待されているのか、またそれらは持続可能な都市の発展にどのように貢献しうるのか、テクノロジーやサービスの送り手のみならず、受け手の視点をも重視した議論の展開を試みたい。
*別紙1 2020年度春季(第42回)情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

(2) 2020年度秋季(第43回)情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

2020年度秋季(第43回)情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムを2020年12月5日(土)に、専修大学神田キャンパス(東京都千代田区神田神保町3-8)にて開催する。学会大会では、個人研究発表(学生の部、一般の部)、ポスターセッション、研究会報告を行い、春の大会と同様にすべての発表に討論者を付ける。また本大会でも優秀な大学院生の発表には、アーリーバード発表賞を贈る。

国際コミュニケーション・フォーラムでは、英文ブックシリーズ『A Book Series: Advances in Information and Communication Research』第1巻、第2巻の出版を記念し、シンポジウムを開催する。テーマは「新融合時代の情報通信・メディア政策（仮題）」とし、日本の情報通信政策およびメディア・コンテンツ政策について、多様な視点から議論する。

*別紙2 2020年度秋季（第43回）情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

(3) 2020年度関西大会

2020年度関西大会を2020年10月10日（土）～11日（日）に、関西大学梅田キャンパスにおいて、関西大学社会学部、本学会モバイルコミュニケーション研究会及びデジタル・エコシステム研究会との共催で、「ポストモバイル社会に関する国際シンポジウム— Doubling of Reality: Everyday Lives in Post Mobile Society」と題し、シンポジウムを開催する。

*別紙3 2020年度関西大会

(4) 共催シンポジウム

2020年4月2日（木）、電波産業会会議室において、共催シンポジウム「Smart City in Europe and Japan --- Implications for Local 5G---スマートシティの日欧比較 ---ローカル5Gの活用に向けて---」を早稲田大学アジア太平洋研究センター、第5世代モバイル推進フォーラム(5GMF)及び早稲田大学リサーチイノベーションセンターと共催で開催する。

*別紙4 共催シンポジウム「Smart City in Europe and Japan --- Implications for Local 5G---スマートシティの日欧比較 ---ローカル5Gの活用に向けて---」

※本シンポジウムについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月13日（金）に4月2日（木）の開催を延期することを決定した。なお、新しい開催日程が決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

2. 公益事業2 研究会等実施、機関誌等発行、研究顕彰事業

研究会等の事業として、11の研究会による研究会報告を開く。さらに情報通信分野におけるタイムリーなテーマを分かりやすく取り上げたワークショップを開催する。これらの研究会、ワークショップは広く一般参加を認め、社会に貢献できるものとする。

また、学術論文の発表の場として年2回学会誌を刊行（電子版は年4回発行）、掲載された論文の中から優秀なものに春季学会大会において論文賞を授与する。

その他、学会誌のオンラインジャーナル化についても検討していき、昨年度に引き続き研究成果の発表を積極的に海外へ発信すべく、英文図書の発行についても精力的に取り組む。

(1) 研究会・ワークショップの開催

2020年度は以下の11の研究会により35回の研究会を関東地区、関西地区、中京地区九州・沖縄地区で開催する。また、積極的に新規研究会を募集し、研究会の活性化を図る。

情報通信ワークショップについては、年2、3回程度開催する。これらの活動についてホームページ等で周知を行う。

1. 情報社会研究会（主査：中村広幸 幹事：井村保、柴田邦臣）
2. 情報行動研究会（主査：橋元良明 幹事：松田美佐）
3. モバイルコミュニケーション研究会（主査：藤本憲一 幹事：富田英典、岡田朋之）
4. 情報知財研究会（主査：鈴木雄一 幹事：玉井克哉）
5. 情報通信経済法学会研究会（主査：林秀弥 幹事：福田雅樹）
6. コンテンツビジネス研究会（主査：大場吾郎 幹事：田村和人、浅利光昭）
7. 災害情報と法と経済に関する研究会（主査：林秀弥 幹事：井上禎男、西澤雅道）
8. AI ネットワーク法・政策研究会（主査：福田雅樹 幹事：成原慧）
9. デジタル・エコシステム研究会（主査：岡田朋之 幹事：長谷川想、北村順生）
10. 次世代ネット政策研究会（主査：庄司昌彦 幹事：高口鉄平）
11. 地域5G研究会（主査：菅谷実 幹事：山田徳彦、米谷南海）

*別紙5 研究会と情報通信ワークショップの計画と年間スケジュール

(2) 学会誌等の発行

学会誌を電子媒体として年4回（6月、9月、12月、3月）発行する。紙媒体については、2号合本形式で年2回（9月、3月）刊行する。

投稿された「論文」および「論説」については、査読を経て審査の上、「寄稿論文」については、「情報通信学会誌寄稿論文取扱規則」に定める手続きに従い掲載する。学会誌には、シンポジウム講演録、研究会報告等も併せて掲載し、会員への有益かつ迅速な情報提供に努める。また学会誌のオンラインジャーナル化についても検討していく。

さらに、学会誌の国際化等を推進するため、今後も英文の投稿を積極的に受け入れ、併せて、昨年度に引き続き英文ブックシリーズ「Advances in Information and Communication Research」(Springer 社発刊) の発行を予定している。

(3) 論文賞の授与

学会誌に掲載された投稿論文の中から優秀な論文に対し、優秀賞、佳作の論文賞を選考する。選考された論文執筆者に表彰状、副賞を春季学会大会総会において授与する。

3. 管理部門

活発化した学会の事業活動を支えるため、管理部門の基盤を固め、経費の節減に努めつつ、スムーズな事業活動支援を行う。

(1) 会員

学会の基盤となる個人会員の増強を図る。特に若い研究者の新規入会を図る。

(2) 業務執行体制

事務局業務については、経費の一層の削減を行うとともに業務の円滑化を進め、学会活動の活性化を支える。

(3) 情報発信と情報公開

学会活動の迅速な情報公開を図るとともに、ホームページのリニューアルなど更なる充実を図る。

(4) 寄附

学会活動を広く周知し、これらの活動への理解を得られるよう努めるとともに、寄附を募り、学会活動の充実にあて、社会への貢献を行う。

(5) 資金運用の計画

2020年度における資金の運用について、別紙6のとおり計画する。これをもって、学会の資金運用に関する規則第3条第4項に定める資金運用の計画とする。

*別紙6「2020年度における資金運用の計画」

別紙1 2020年度春季（第42回）情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラム

<情報通信学会大会>

開催日： 2020年7月4日（土）～5日（日）

会場： 関西大学 梅田キャンパス

（〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-5）

プログラム：個人研究発表・ポスターセッション・研究会報告・特別報告・総会・懇親会

<国際コミュニケーション・フォーラム シンポジウム>

開催日： 2020年7月4日（土）14：30～17：30

会場： 関西大学 梅田キャンパス 8階 KANDAI Me RISE ホール

テーマ： 「大阪・関西万博におけるICTの利活用とツーリズムの新局面（仮題）」

主旨： 2025年に開催が予定されている大阪・関西万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマに、また「People's Living Lab：未来社会の実験場」がコンセプトに据えられ、ICT（情報通信技術）を用いた新たな試みがさまざまな形で実装されることが期待されている。万博はその始まりから新技術の競演の場であったが、本フォーラムでは近年の博覧会の動向を踏まえつつ、ICTのいかなる展示や利活用が期待されているのか、またそれらは持続可能な都市の発展にどのように貢献しうるのか、テクノロジーやサービスの送り手のみならず、受け手の視点をも重視した議論の展開を試みたい。

プログラム：基調講演及びパネルディスカッション

フォーラム参加費： 無料

懇親会費： 一般 5,000円 学生 3,000円

共催： 関西大学総合情報学部、公益財団法人KDDI財団

協賛： 情報通信月間推進協議会

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

**2020年度春季（第42回）情報通信学会大会
個人研究発表およびポスターセッション募集要領**

日時：2020年7月4日（土）～5日（日）

会場：関西大学 梅田キャンパス（〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町 1-5）

【注意事項】

- ・発表者は、情報通信学会の会員に限ります。但し、まだ会員でない方でも発表申込の前に入会手続きを行い、仮入会された場合は、申込が可能となります。また、共同研究者については、会員、非会員を問いません。
- ・当学会会員である発表者は、学会年会費の滞納がないことが条件となります。
- ・応募が多数となった場合、または応募内容が不適切な場合（例えば、広告を主目的とみなされる場合）には、当学会研究企画委員会にて審査を行い、発表者を選考することがあります。
- ・当学会所定用紙については、当学会ホームページ（<http://www.jsicr.jp>）よりダウンロードしてください。
- ・身体機能に障がいをお持ちの方で、学会大会個人研究発表を行うに際し、特別な配慮を必要とされる方は、「個人研究発表申込票」の該当チェックボックス欄に記入し、お申込みください。その後、事務局から問い合わせいたします。
- ・発表申込後に発表の取消しがないよう計画を立てて申し込んでください。

■個人研究発表募集要領

【扱う分野】

情報及びコミュニケーションに関する分野で産業や学術の発展に寄与する内容を持つ、独創性、新規性、有用性等の面で価値が認められる未発表のもの。

発表申込締切日 2020年4月17日（金）正午 必着
申込票（学会所定用紙）及び報告要旨（学会所定用紙）をメールもしくは郵送にて学会事務局へ提出

予稿または発表資料 2020年6月19日（金）正午 必着
の提出締切日 予稿または発表資料をメールもしくは郵送にて学会事務局へ提出

※発表には討論者がつきます。

※報告要旨に図表を入れたい場合は、学会所定用紙と併せて図表のみ記載の別紙（A4 1枚まで）を提出してください。

※報告要旨は当学会ホームページにて公開され、学会大会当日配布のプログラムに掲載されます。予稿及び発表資料については、希望がない限り原則非公開とします。

《情報通信学会アーリーバード発表賞》

当学会では個人研究発表（学生の部）において、優秀な発表には「アーリーバード発表賞」を授与し、表彰状及び副賞（30,000円）を贈呈します。

■ポスターセッション募集要領

【扱う分野】

情報及びコミュニケーションに関する分野で産業や学術の発展に寄与する内容を持つ、独創性、新規性、有用性等の面で価値が認められる未発表のもの。

発表申込締切日 2020年4月17日（金）正午 必着

申込書（学会所定用紙）をメールもしくは郵送にて学会事務局へ提出

※発表は、学会大会当日に事務局より指定された掲示場所にて行ってください。

※ポスターサイズはA1サイズ4枚以内とします。発表者各自が印刷した上で、当日持参し、発表者本人が掲示してください。

※個人研究発表及びポスターセッションの申込締切については、3月13日（金）正午必着として募集を開始していたが、諸般の事情を鑑み、3月16日（月）に、申込締切を4月17日（金）正午までに延長することを決定し、その旨学会ホームページ及び会員向け一斉メールにて周知した。

お申込・お問い合わせ先：

公益財団法人情報通信学会事務局

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル 11階

TEL：03-5501-0566 FAX:03-5501-0567

E-mail：event@jsicr.jp

URL：http://www.jsicr.jp

事務局開室時間 月曜日～金曜日 10：00～17：00

※土曜・日曜・祝日休み

別紙2 2020年度秋季(第43回)情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラム

開催日: 2020年12月5日(土)

会場: 専修大学 神田キャンパス

(〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8)

テーマ: 英文ブックシリーズ

『A Book Series: Advances in Information and Communication Research』

出版記念シンポジウム

「新融合時代の情報通信・メディア政策(仮題)」

開催主旨:

情報通信学会は2020年度秋季(第43回)学会大会を開催し、春季学会大会同様、学会員の最新の研究成果報告、さらには学会参加者との活発な意見交換の場を提供する。

また、国際コミュニケーション・フォーラムでは、学会の国際化推進の柱の一つでもある英文ブックシリーズ『A Book Series: Advances in Information and Communication Research』第1巻、第2巻の出版を記念し、「新融合時代の情報通信・メディア政策」をテーマにシンポジウムを開催し、日本の情報通信政策およびメディア・コンテンツ政策について、情報通信・メディア市場の状況判断、政策が基づくところの考え方、将来の方向性を、国際的なトレンドなど多様な視点から議論する。

プログラム: (予定) (敬称略)

<情報通信学会大会>

10:00~12:30 個人研究発表・ポスターセッション・研究会報告・特別報告

<国際コミュニケーション・フォーラム>

14:30~17:30 シンポジウム

18:00~20:00 懇親会

個人研究発表及びポスターセッションの募集(予定)

募集: 個人研究発表 8月中旬~9月中旬頃

ポスターセッション 8月中旬~9月中旬頃

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

別紙3 2020年度 関西大会

開催日： 2020年10月10日（日）～11日（日）

会場： 関西大学梅田キャンパス

（〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-5）

テーマ： 「ポストモバイル社会に関する国際シンポジウム

—— Doubling of Reality: Everyday Lives in Post Mobile Society」

プログラム：(予定)

10月10日（土）

・シンポジウム

基調講演：Adriana de Souza e Silva (North Carolina State University, USA)

パネラー；Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht, Netherlands)／Ingo Schulz-Schaeffer (Technische Universität Berlin, Germany)／Eric Lettkemann (Technische Universität Berlin, Germany)

／安田登(下掛宝生流能楽師)

10月11日（日）

分科会

主催：関西大学社会学部

公益財団法人情報通信学会

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

別紙4 共催シンポジウム

「Smart City in Europe and Japan --- Implications for Local 5G--- スマートシティの日欧比較 ---ローカル5Gの活用に向けて---

開催日： 2020年4月2日（木）14:00～17:00

※本シンポジウムについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月13日（金）に4月2日（木）の開催を延期することを決定した。なお、新しい開催日程が決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

会場： 一般社団法人電波産業会会議室

（〒100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階）

主催：公益財団法人情報通信学会

共催：早稲田大学アジア太平洋研究センター、第5世代モバイル推進フォーラム（5GMF）
早稲田大学リサーチイノベーションセンター

後援：総務省（依頼中）

一般社団法人電波産業会（依頼中）

主旨： 5G を活用したスマートシティプロジェクトをフィンランドで展開している Aalto 大学 Heikki Hämmäinen 教授をゲストに迎え、スマートシティの形成に関する日欧比較を通じて、その課題や方向性を議論する。ローカル 5G の活用を念頭に、スマートシティの事業可能性、社会実装に向けた新たな知見を共有する。

プログラム（予定）：（敬称略）

14:00-14:10 解題 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長・教授 三友 仁志

14:10-15:20 基調講演1：アールト大学教授(フィンランド) ヘイキ・ヘマイネン
Heikki Hämmäinen (Professor, Aalto University, Finland)

基調講演2：総務省情報流通行政局地域通信振興課長 磯 寿生

15:20-15:30 休憩

15:30-16:40 パネルディスカッション：

「5G：持続可能性に貢献する社会プラットフォームの形成に向けて」

Panel Discussion: 5G: Creating a Social Platform for Sustainability

モデレータ：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長・教授 三友 仁志

パネリスト：

アールト大学教授(フィンランド) ヘイキ・ヘマイネン

総務省情報流通行政局地域通信振興課長 磯 寿生

早稲田大学リサーチイノベーションセンター教授 稲田 修一

ノキア Bell Labs & CTO グローバル技術標準化シニアスペシャリスト 柳橋 達也

加古川市情報政策課副課長 多田 功

16:40 質疑応答

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

別紙5 研究会と情報通信ワークショップの計画と年間スケジュール

<研究会>

1. 情報社会研究会 年2回開催予定
1) 障害者差別解消法の施行を受けわが国においても、情報アクセシビリティの社会的側面がますます重要となってきた。情報通信分野でもこの課題に一層真剣に取り組む必要があると考え、本研究会ではその点について議論していく。
2) VRやARが急速に普及しているが、応用面についての議論は途上である。映像情報メディアの観点からVR・AR・S3D等のコンテンツとその活用を社会的観点で議論する。
第1回 11月もしくは12月 2020年度秋季学会大会研究会報告
「高齢者とIoT-スマートホームを例に-」
第2回 11月もしくは12月 ワークショップ：情報アクセシビリティ探検隊
(共催) 芝浦工業大学
2. 情報行動研究会 年1回開催予定
メディア環境が大きく変容する現代社会において、ユーザーの情報行動、コミュニケーションの実態を把握し、情報通信の発展に寄与する研究活動の一環として開催する。
第1回 7月 2020年度春季学会大会研究会報告
『日本人の情報行動2020年調査』の結果について
3. モバイルコミュニケーション研究会 年6回開催予定
情報通信分野におけるモバイルメディアの普及は現代人の社会生活全般に大きな変化を与えつつある。本研究会では、このようなモバイルメディアに焦点を合わせ、今日の情報通信社会におけるコミュニケーションの変化、メディア文化の変容等について研究する。
第1回 4月 「武士たちのAR装置～六義園での実践的研究(仮)」
第2回 6月 「ネットローカリティ理論について(仮)」
第3回 8月 「スクリーンスタディとセカンドオフライン」
第4・5回 10月 モバイルコミュニケーションに関する国際シンポジウム
「Doubling of Reality: Everyday Lives in Post Mobile Society」及び
分科会
* 関西大学社会学部、本学会デジタル・エコシステム研究会との共催
第6回 11月 「5G商用サービスの現状について」
4. 情報知財研究会 年8回開催予定
デジタル技術、ネットワーク技術に代表される情報通信技術の進展に伴ってコンテンツの流通形態が多様化し、著作権法をはじめとする知的財産法制はさまざまな対応を迫られている。この研究会では、情報通信技術の進展により具現化しつつある「通信と放送の融合」といった局面に、知財法制、知財政策がいかに対応すべきであるかを研究し、高度情報通信社会におけるコンテンツの円滑な流通の在り方を探る。
4月、6月、7月、9月、10月、12月、2月、3月に開催予定、テーマ等は未定。

5. 情報通信経済法学会 年2回開催予定

情報通信分野においては、ネットワークのブロードバンド化、インターネットの普及、通信と放送の融合等を背景として、事業者間の競争及び紛争の状況が変化しつつある。一般競争法及び事業規制法についても、このような変化に対応し得るよう、両者の競合・協働関係を含め、解釈論及び立法論の双方を深めることが必要となってきた。本研究会は、情報通信分野における事業者間の競争及び紛争に関する今日的な諸問題に関し主に経済法学の見地からの研究を行うことを目的とする。

開催時期及びテーマについては、発表者の希望を踏まえつつ、今後調整。

仮テーマは、現時点では、次のとおり。

「独占禁止法と事業法との関係」、「知的財産・標準と競争」、「ネットワークの中立性」、「周波数のオークション」、「データの円滑な流通の確保をめぐる法的問題」、「AI ネットワーク化をめぐる法的問題」、「放送事業者によるネット配信をめぐる法的問題」、「公益事業分野におけるネットワークの接続制度」

6. コンテンツビジネス研究会 年2回開催予定

注目を浴びるようになって久しいコンテンツ産業だが、そこには常に新たなビジネス生態系が生じている。本研究会では、テレビ番組、映画、アニメ、音楽、ゲームなどのコンテンツ分野を横断的に取り上げ、新たなプラットフォームやマーケットなどの環境変化への対応に始まり、プロモーション、商品化、物品販売、イベント興行、他産業との連携などを通して、コンテンツの価値を最大化するビジネススキームを考察・理解することを目的とする。併せて、そこでの課題について整理し、今後の方向性を検討する。

今年度は6月と11月に開催予定。

7. 災害情報と法と経済に関する研究会 年3回開催予定

2011年の東日本大震災の教訓を踏まえ、災害対策基本法が改正され、例えば、地域コミュニティの共助による防災活動を促進するための地区防災計画制度が創設され、地域住民等による災害時の情報の活用等に注目が集まっている。2019年度に発災した台風19号、15号、新潟・山形地震等においても、避難所の運営等多様な分野で災害時の情報伝達の在り方が問題になっている。そこで、本研究会では、災害時の情報活用の在り方等について、関係分野における法的な議論も踏まえつつ考察を行うものとする。

第1回 7月 「南海トラフ地震への備えと情報法（仮）」

第2回 9月 「九州・沖縄の災害と情報法（仮）」

第3回 12月 「2020年度の災害と情報法（仮）」

8. AI ネットワーク法・政策研究会 年3回開催予定

AI がインターネット等を通じて他のAI等と接続し連携する「AI ネットワーク化」の進展を見据え、AI ネットワーク化に関する法的・政策的問題について学際的に検討する。研究会では、産学民官の有識者をゲストに招いて、領域横断的な議論を行う。

第1回 9月 「AI時代社会に向けたこころ・ひとの涵養・育成

-ネット社会と依存症・技の修練・エンハンスメントの切り口から-」（仮）」

第2回 12月 「AI ネットワーク化をめぐる ELSI（仮）」

第3回 3月 「AI ネットワーク化をめぐる規範形成の展開（仮）」

9. デジタル・エコシステム研究会 年3回開催予定

今日の社会がグローバルな諸課題（地球環境、社会的格差、安全保障等々）にとり囲まれるなか、持続可能な発展を実現しうる社会の制度設計や政策立案に向けて、ICTの果たす役割について考える。くわえて関西地域が有史以来日本の政治や文化、産業の極としても大きな役割を果たし、また本学会の設立以後は情報通信研究の中核のひとつを担ってきた経緯を踏まえて、当地域の発展にICTがどう資するかも交えた議論の展開をめざす。

第1回 10月 モバイルコミュニケーションに関する国際シンポジウム

「Doubling of Reality: Everyday Lives in Post Mobile Society」及び
分科会

* 関西大学社会学部、本学会モバイルコミュニケーション研究会との共催

第2回 12月 「アニメの聖地巡礼をめぐる（仮）」

第3回 2月 「テレビ放送の同時再送信について（仮）」

10. 次世代ネット政策研究会 年2回開催予定

若手の研究者（学部生・大学院生）、政策担当者、民間の有志が集まり、情報通信に関連する分野について対抗ゼミや個人発表、対話を行うことで政策への理解を深める会合を実施する。この活動を通じて、情報通信政策コミュニティの次世代の人材を育成する場となることを目指す。7月、12月に研究会を開催予定、テーマ等は未定。

11. 地域5G研究会 年3回開催予定

次世代通信規格として注目されている5Gは、携帯電話とインターネット接続の提供という従来のBtoCビジネスに変革をもたらし、新たなビジネスやサービスを創出しようとしている。そのなかでも特に注目されるのはモノのインターネット（IoT）分野における取り組みである。本研究会では、日本および海外の先進事例を取り上げながら、5G技術が地域活性化に与える影響について多角的に検証する。

第1回 7月 2020年度春季学会大会研究会報告 「日本におけるローカル5Gの現状」

第2回 10月 「ニューヨーク州における5G事情」

第3回 12月 2020年度秋季学会大会研究会報告

「地域活性化に資する5G利活用モデル（アンケート調査中間報告）」

* 詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

<情報通信ワークショップ>

年2、3回程度開催予定

第1回情報通信ワークショップ

日時：9月（調整中）

場所：一般社団法人電波産業会会議室（予定）

テーマ：「ネット配信を巡る競争等（仮）」

上記以外の現時点で検討しているテーマは以下の通りである。

「ローカル 5G の現状と課題」「防災と ICT」「革新的なモビリティサービスと ICT」

「新型コロナウイルス対応における ICT の役割」

開催時期等については、登壇者と調整の上決定する。

* 詳細は決まり次第学会ホームページ等で周知する。

別紙6 2020年度における資金運用の計画

資金の種類 及び 年度期首における金額	運用の計画
A 基本財産 7,600 万円	
(1) 年度内に満期を迎えるもの 2,600 万円 ①みずほ銀行定期預金 (2020年6月19日満期、額面1,000万円) ②みずほ銀行定期預金 (2020年7月4日満期、額面1,000万円) ③ゆうちょ銀行定期貯金 (2020年7月7日満期、額面100万円) ④みずほ銀行定期預金 (2021年2月2日満期、額面500万円)	満期到来時に、基本財産の運用対象として資金運用細則に定めた預貯金及び投資有価証券へ、預け替え又は買い替えて運用する。
(2) それ以外のもの 5,000 万円 ④第392回大阪府公募公債 (2025年1月29日満期、額面3,000万円) ⑤第14回みずほフィナンシャル期限前劣後債 (2028年6月20日満期、額面1,000万円) ⑤第45回利付国債 (2044年12月20日満期、額面1,000万円)	左記の有価証券により、引き続き運用する。
B その他の資金 960.2 万円	
a 退職給付引当資産 90.2 万円 ゆうちょ銀行定額貯金 90.2 万円	2020年度は、新たに70万円を積立て、定額貯金により運用する。
b 周年事業基金積立資産 530 万円 ゆうちょ銀行定期貯金 530 万円	40周年記念事業に備え、定期預金により運用する。
c 公益事業促進基金積立資産 340 万円 みずほ銀行定期預金 340 万円	公益事業促進のために定期預金にて保有する。